

獣医療提供体制整備推進総合対策事業 (産業動物獣医師の確保対策)



平成28年11月10日
農林水産省

獣医師の就業状況など

- 畜産の産出額は3兆円(農業産出額 8.4兆円の1/3強)。400万頭の牛、1千万頭の豚等が飼養されている。
- 約4万人が獣医師の免許を保有。獣医師は、産業動物(牛・豚等)や小動物(ペット)の診療、鳥インフルエンザなど家畜伝染病の防疫、食品の安全など幅広い分野で活躍。
- 近年、産業動物を診療する獣医師等の割合が減少。産業動物診療獣医師を確保できない地域もあり、大きな課題となっているところ。
- 獣医師を年代別・男女別にみると、若い世代で女性の割合が増加。20・30代では半数近くが女性。
- 20～50代の獣医師のうち無職の者は約3%であるが、女性に限ると6.5%。無職の獣医師のうち、30代では8割、40代では9割を女性が占めている。

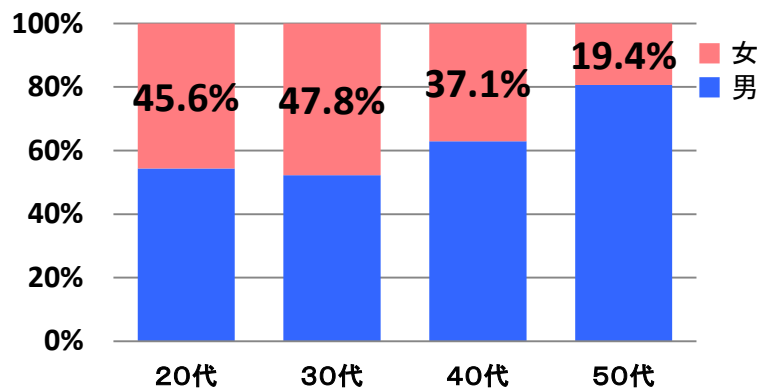
① 産業動物の飼養頭羽数と自給率

乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
1,395千頭 (生乳65%)	2,567千頭 (牛肉42%)	9,537千頭 (豚肉51%)	134百万羽 (鶏卵95%)	136百万羽 (鶏肉67%)

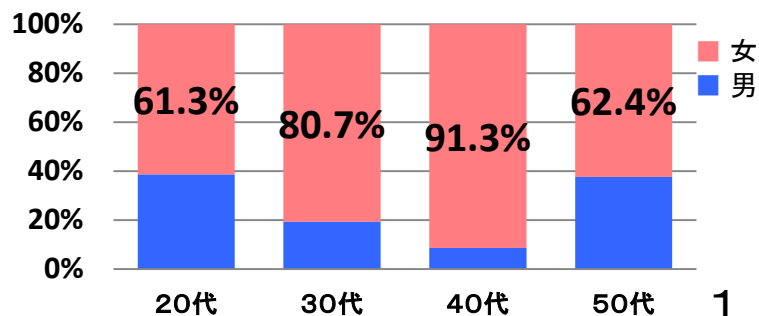
② 獣医師の分野別就業状況(構成比(%))

		H26年	H16年	変化	
獣医事に 従事	産業動物診療	11.0%	14.4%	-3.4%	
	公務員	農業分野	8.8%	11.7%	-2.9%
		公衆衛生分野ほか	15.4%	17.2%	-1.8%
	小動物診療	38.9%	32.1%	+6.8%	
	その他分野	14.2%	12.4%	+1.8%	
小計		88.4%	87.8%	+0.6%	
獣医事以外に従事・無職		11.6%	12.2%	-0.6%	

③ 獣医師の年代別男女比(H26年)



④ 無職の男女比(H26年)



獣医療提供体制整備推進総合対策事業 (H27年度予算: 148百万円)

【対策のポイント】 地域的な偏在を踏まえた産業動物獣医師の育成・確保 (H22年度～)

○事業内容

- (1) 産業動物獣医師を志す獣医大学生や高校生等を対象に修学資金を貸与
- (2) 獣医大学生を対象に、産業動物診療等への理解を深め、これら分野に誘引するための臨床実習等を実施
- (3) 新規獣医師を対象に、臨床現場における診療や家畜防疫に必要な知識・技術を習得するための臨床研修等を実施
- (4) 診療獣医師を対象に、農場管理技術等を習得するための臨床研修等を実施
- (5) 女子大学生等を対象とした女性獣医師によるセミナー、女性獣医師等を対象とした職場復帰・再就職を支援するための研修、女性獣医師の活躍促進のための情報プラットフォームの整備等を実施 (H27年度～)



女性の産業動物獣医師としての就業促進、
離職防止、再就職・職場復帰を支援

○(5)の事業の実績 (H27年度)

	実績	執行額	実施内容
獣医学生向けセミナー	475人 (7か所)	772千円	女子大学生等を対象とした将来の就業先について考える機会を提供する女性獣医師によるセミナー
女性獣医師職場環境整備講習会	65人 (1か所)	724千円	雇用者を対象とした女性獣医師の就業に対する理解醸成のための講習会
女性獣医師就業支援研修 研修会の開催	6人 (6か所)	80千円	女性獣医師等の職場復帰・再就職を支援するための研修会の開催
e-ラーニング	20テーマ	2,743千円	女性獣医師を対象とした職場復帰・再就職に必要な最新知識の修得等のためのe-ラーニング教材の作成
女性獣医師応援ポータルサイト	http://nichiu-shien.com/	9,560千円	女性獣医師等の活躍促進のための情報プラットフォームの整備
		計14,006千円	

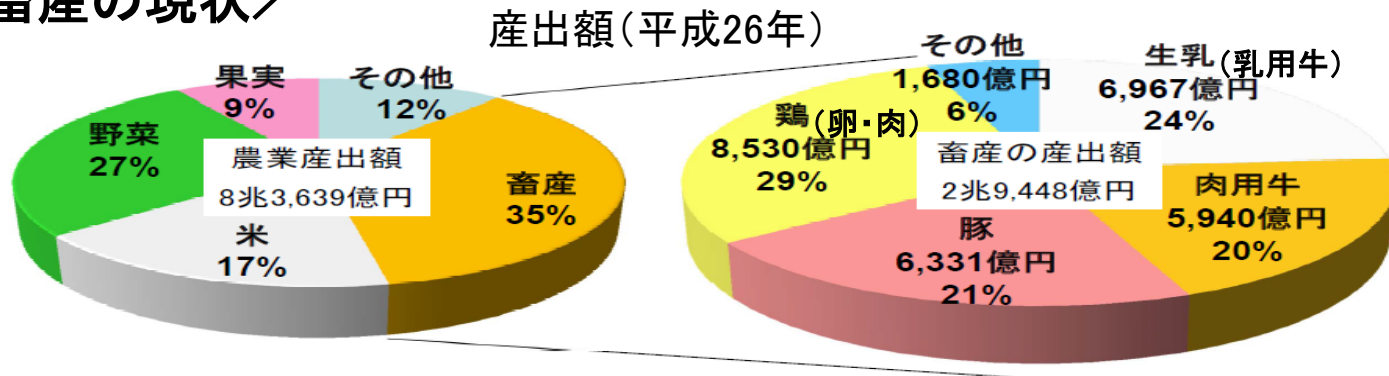
○成果指標について

就業支援研修受講者のうち、産業動物獣医師として就業した者の割合を指標とする方向で検討。

獣医療提供体制整備推進総合対策事業 (参考資料)

平成28年11月10日
農林水産省

<我が国の畜産の現状>



飼養戸数と飼養羽数(平成26年)

	飼養戸数(戸)	飼養頭羽数(千頭/千羽)
乳用牛	18,600	1,395
肉用牛	57,500	2,567
豚	5,300	9,537
採卵鶏	2,560	133,506
肉用鶏	2,380	135,747

自給率(平成26年度) * :重量ベース

	自給率(%)*
牛乳・乳製品	65
牛肉	42
豚肉	51
鶏卵	95
鶏肉	67

獣医師の就業状況

- 獣医師として、約4万人が免許を保有。獣医師は、産業動物(牛・豚等)や小動物(ペット)の診療、鳥インフルエンザなど家畜伝染病の防疫、食品の安全など幅広い分野で活躍。
- 10年前との比較では、小動物診療獣医師の割合が約7%増加しているのに対し、産業動物診療獣医等の割合は減少。
- 産業動物診療獣医師が確保できない県農業共済組合もある。

分野別獣医師数と構成比

		平成26年		平成16年	変化	備考	
獣医事に 従事する 獣医師	産業動物診療	4,317人	11.0%	14.4%	-3.4%	家畜や家きん(産業動物)の診療等	
	公務員	農業分野	3,433人	8.8%	11.7%	-2.9%	畜産行政、家畜伝染病の防疫等
		公衆衛生分野	5,518人	14.1%	15.3%	-1.2%	食肉検査、食品衛生監視指導等
		その他	505人	1.3%	1.9%	-0.6%	動物愛護等
	小動物診療	15,205人	38.9%	32.1%	6.8%	犬、猫等のペットの診療等	
	その他の分野	5,570人	14.2%	12.4%	1.8%	大学の教員、医薬品の開発等	
	小計	34,548人	88.4%	87.8%	0.6%		
獣医事に従事しない者(無職含む)		4,550人	11.6%	12.2%	-0.6%		
合計		39,098人	100.0%	100.0%	0.0%		

【農林水産省調べ】

県農業共済組合における産業動物診療獣医師の募集・採用実績(平成23～28年)

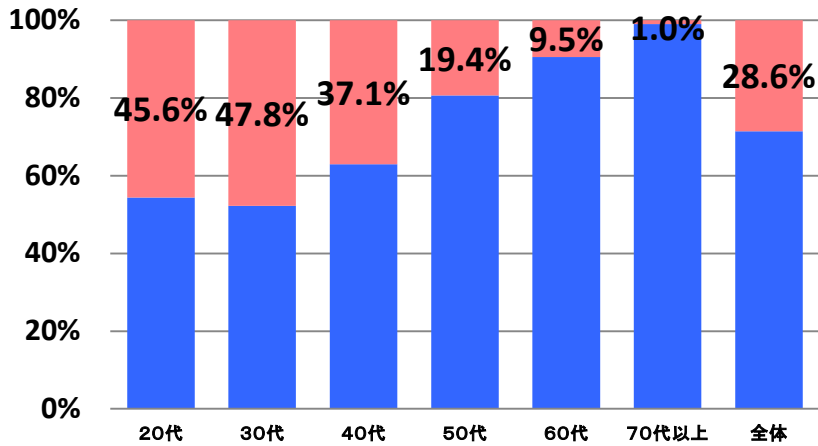
	A県	B県	C県	D県	E県	F県
募集(人)	2	8	14	8	11	6
採用(人)	3	9	15	3	4	2
採用／募集(%)	150.0	112.5	107.1	37.5	36.4	33.3

【農林水産省調べ】

年代別・男女別にみた獣医師の割合

○獣医師の年代別男女比をみると、近年、若い世代で女性の割合が増加。20代、30代では半数近く。
 ○20代から50代の獣医師のうち無職の者は約3%であるが、女性に限ると6.5%。無職の獣医師の男女比をみると、30代では8割、40代では9割を女性が占めている。

獣医師の年代別男女比(平成26年)



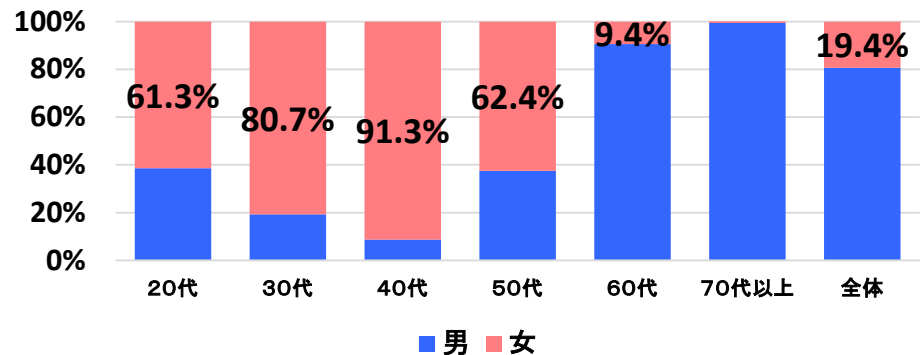
年代別の獣医師数(平成26年)

(単位:人)

	届出者総数			うち無職		
		うち女性	うち男性		うち女性	うち男性
全体	39,098	11,177	27,921	3,980	772	3,208
20代	3,638	1,659	1,979	163	100	63
30代	8,770	4,191	4,579	378	305	73
40代	8,439	3,132	5,307	196	179	17
50代	8,216	1,594	6,622	157	98	59
60代	5,893	558	5,335	819	77	742
70代以上	4,142	43	4,099	2267	13	2,254
小計 (20~50代)	29,063	10,576	18,487	894 (3.1%)	682 (6.5%)	212 (1.1%)

【農林水産省調べ】

無職の男女比(平成26年)



獣医師をやめぬ環境探る

出産・育児不安解消へ

出産、育児などによる離職が課題となっている女性獣医師が活躍できる環境づくりに目指そうという試みが始まった。日本獣医師会は25日、日本大学生物資源科学部（神奈川県藤沢市）で獣医師を目指す学生向け

学生セミナー 先輩が体験談

セミナーを開き、女性獣医師が自らの勤務経験を披露、仕事を続けるためのアドバイスをした。同会は専門家による委員会を立ち上げ、仕事を続けられて復職しやすい支援策を検討する。



女性獣医師の話を真剣な表情で聴き入る獣医学生（25日、神奈川県藤沢市で）

女性への支援策検討

女性獣医師は近年、増加傾向があり、農水省の調べによると全体の約30%を占める。20、30代では45%程度が女性。ただ、20～50代の女性獣医師の約7割は職に就いていない状況だ。同省は「全体として必要な人数

は確保できている」というのが、畜産を支える牛や豚など産業動物分野は地域によって不足し、解消に向けて女性獣医師への支援が急務となっている。学生向けセミナーは同省事業の一環で、2015年度から新たに始めた。同日は、茨城県畜産センター養豚研究所の首席研究員の前田育子さん（55）と、東京都八王子市で動物病院を開業する西木千絵さん（55）が講師を務めた。

生所での業務などを紹介し、力が必要とされる牛や豚を相手にした作業でも専用器具があり「作業の工夫で肉体的な負担は軽減できる」と説明。出産や育児支援へ検討が進んでいることも伝え、女性獣医師が活躍を続けら

れる職場は、全ての獣医師が活躍できる」と強調した。西木さんも男性、女性ともに働き方の見直しが必要だと指摘した。教員には学生50人ほどが集まり、熱心に受講した。就職活動を来年に控えた同学部獣医学科5年生の岩尾ひかるさん（22）は「女性獣医師から話を聞く機会はあまりなく、まして出産、育児のことを聞いたのは貴重で、進

路を選び参考になりたい」と話した。5年生の山本美貴さん（23）の第一志望は、育児などの制度が充実している公務員。「産業動物の診療実習は楽しかったが、地方の人手が薄い職場では（休暇が取れるか）心配もある」と本音を話す。3年生の西岡絵夢さん（21）も「将来、産休や育児で現場を離れた時に、技術や制度の変化についていけるか不安だったが、視野が広がった」と話した。

セミナーは今年度、同大学を含めて計7大学で開く。